秋の褒章

喜びの言葉

≪1面参照≫

藍綬

日本電子回路工業会
元会長(顧問、日本メクトロン相談役)

安東(あんどう)　脩二(しゅうじ)氏

藍綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。この受章は永年にわたり電子回路業界を支えられた会員各位をはじめ、歴代会長並びに現在ご活躍の理事各位を代表してのものと考えております。

今年、日本電子回路工業会創立50周年、社団法人設立35周年の節目にあります。電子回路産業もまた半世紀を越え、一つの転換期にあると認識しており、事業環境整備と仕組みづくりなど新たな視点を加え、魅力ある産業であり続けることを切に願うものであります。

藍綬

川口鋳物工業協同組合
理事長(伊藤鉄工社長)

伊藤(いとう)　光男(みつお)氏

このたび藍綬褒章の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。今回の褒章は、私個人でというのではなく、川口鋳物工業協同組合の組合員全員で頂戴したものととらえています。また、埼玉県中小企業団体中央会には、日ごろからさまざまな形でサポートしていただいています。改めて、皆さんに感謝したいと思います。

この栄誉におごることなく、今後もいつも通り粛々と、組合員のために川口鋳物工業協同組合を運営していきたいと思います。

藍綬

トヨタ自動車
元副社長(顧問)

岩月(いわつき)　一詞(かずし)氏

はからずも藍綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄と存じます。昭和39年のトヨタ自動車入社以来、一貫して国内営業部門に携わって参りました。モータリゼーションが進み自動車産業の役割が大きくなるなか、さまざまなご要望に対応できる販売体制の構築や、新たな販売事業・手法の確立に取り組むことができましたことを感謝申し上げます。販売店の皆様方とともに、豊かなクルマ社会にいささかなりとも貢献できましたことはこの上ない喜びでございます。

藍綬

伊藤忠商事
元副社長(理事)

加藤(かとう)　誠(まこと)氏

受章の栄に浴し、大変光栄に存じます。1964年に伊藤忠商事に入社以来、繊維の輸出と輸入に携わり、業界ひいては日本経済の発展に貢献できたことを誇りに思っております。このたびの受章は私個人のものではなく、お取引先様や業界関係者の力強いご支援とご協力の賜物であり、会社の先輩・同僚・後輩の方々の努力を評価していただいたものと心からうれしく思っております。あらためまして皆様方に感謝を申し上げますとともに、これからのご指導ご鞭撻をお願いいたします。

藍綬

あいおい損害保険元社長
(あいおいニッセイ同和損害保険特別顧問)

児玉(こだま)　正之(ただし)氏

このたび受章の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。1970年に大東京火災海上保険に入社以来、損害保険事業に従事して参りましたが、この間、自動車保険を中心にお客様に選ばれる商品の開発や、拡大するグローバル化に向けて強固なグループの創設を果たし、社会の安定と経済の発展を支えるべく努めて参りました。また、昨年の東日本大震災では被災地の復興に向け、会社をあげて対応いたしました。今後も損害保険事業の発展のために、微力を尽くす所存です。

藍綬

小松電機産業社長

小松(こまつ)　昭夫(あきお)氏

このたびの受章、光栄に存じます。時代の風と社会問題を経営資源ととらえ、シートシャッター「門番」と総合水管理システム「やくも水神」の市場を創造、ブランドを確立しました。ご縁のあったたくさんの方々と社員のおかげです。「信」が世界規模で動揺、日本は歴史・領土問題が重なり先が見えない状況です。人間自然科学研究所の国内外の活動を背景に「禍を福となす」プロジェクトを立案するため議論を重ねています。皆様の一層のご指導、ご支援をお願いいたします。

藍綬

東レ元副社長
(相談役)

下村(しもむら)　彬一(あきかず)氏

このたび褒章の栄に浴しましたことは、身に余る光栄と存じます。ひとえに関係各方面の皆様方の多年にわたる温かいお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。長年、繊維業界に携わる中で、日本繊維産業連盟会長として繊維産業活性化への取り組み、通商問題への対応など働きがいのある仕事をさせていただいております。経済環境の先行きは一段と不透明な状況にありますが、今後もこれまでの経験を生かし少しでも社会のお役に立てるよう微力ながら頑張って参りたいと存じます。

藍綬

日産自動車
元副社長

高橋(たかはし)　忠生(ただお)氏

このたび藍綬褒章を受章いたしましたことは大変身に余ることと光栄に思います。日産自動車では生産部門でモノづくり力の強化に永年取り組んで参りました。社業に加え、日本自動車工業会などでの活動を通じ、産業発展や人材育成に取り組んでいることが、褒章をいただいた理由と考えます。このような栄誉を得ることができましたのは、世界中のお客様、日本国内外の車メーカーの皆様、全世界のサプライヤーの皆様のおかげであり、日産全従業員の努力と献身の賜物です。

藍綬

三重銀行頭取

種橋(たねはし)　潤治(じゅんじ)氏

身に余る光栄に存じます。2009年に三重銀行頭取に就任以来、「地域に広く深く根を張り、親しまれ信頼される銀行」を目指してきました。今回の栄誉は、当行職員が一丸となって努力してきたことが評価されたものだと考えております。景気低迷が長期化し、地元経済の先行き不透明感は拭えませんが、今こそ徹底した地域密着の経営を行っていくことが必要だと考えています。今後も、当行と関わりを持つすべての皆様に共感いただける経営の実践に努めて参ります。

藍綬

兵庫県酒造組合連合会
元会長(沢の鶴社長)

西村(にしむら)　隆治(たかはる)氏

このたび藍綬褒章拝受の栄に浴しましたこと、誠に有り難く存じております。関係各位のご支援と従業員の努力の賜物と感謝致しております。

日本酒業界については厳しい現状の中、国酒・日本酒にふさわしい醸造や営業が行えるよう制度改革を提案してきました。「日本酒で乾杯」の運動も広がりをみせ、会員数も3万人を超えました。沢の鶴は今年創業295周年を迎えています。300周年に向け力を尽くして参りたいと存じますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

藍綬

アイシン精機社長

藤森(ふじもり)　文雄(ふみお)氏

このたび受章の栄誉を賜り、あらためて身の引き締まる思いです。今回の受章はひとえに諸先輩ならびに業界の方々のご指導や、お得意先をはじめとする関係者の皆様のご支援ご協力の賜物であると深く感謝申し上げます。私個人としてではなく会社を代表していただいたものと受け止め、従業員とともに喜びを分かち合いたいと思います。この栄誉を更に意義あるものにするためにも、これまで以上に精進を重ねて業界並びに地域社会のため微力ながら一層の努力をしていく所存です。

藍綬

ダイハツ工業元社長
(相談役、トヨタ紡織相談役)

箕浦(みのうら)　輝幸(てるゆき)氏

今回の受章は、当社並びにダイハツグループの「低燃費、低価格、省資源を追求した小さな車づくり」を通じて、社会に貢献しようと努力を続けてきたことが評価されたものと考えており、販売会社・仕入先を含めたオールダイハツを代表していただいたものと受け止めております。

受章を励みといたしまして、今後もさらに精進を重ねますとともに、微力ながら業界並びに社会の発展に尽力してまいる所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

藍綬

東洋エンジニアリング
元社長(相談役)

山田(やまだ)　豊(ゆたか)氏

本受章は社業であるプラント建設を通じ、地球が抱えるエネルギー・環境・人口増加の課題解決への貢献が評価されたものと、あらためて関係者のご支援に感謝致します。プラント建設は「目に見える経済貢献」と呼ばれ、その国の発展や人材育成に寄与することも大きな使命と認識しております。

今回の受章を当業界並びに当社への栄誉と受け止め、今後も技術革新と国際化をさらに推し進めつつ、持続可能な社会形成に尽力していく所存です。

黄綬

ゴトープラスチック
元社長(相談役)
(名古屋市西区)

後藤(ごとう)　壽夫(としお)氏

このたび受章の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。これもひとえに業界各位、関係団体、関係官庁の皆様方のご指導、ご鞭撻のおかげでありますことと心より厚くお礼申し上げます。今まで一緒に汗水流して働いて下さった社員の皆様、家族のおかげと「ありがとう」を共にしたい気持ちで一杯です。

人間一人の力は限界がありますが、今後も業界のため会社のため微力ではありますが生ある限り切磋琢磨して参る所存でございます。一層のご指導をお願い申し上げます。

黄綬

三河プロペラ社長

近藤(こんどう)　精一(せいいち)氏

このたびははからずも受章の栄に浴し、身に余る光栄でございます。これもひとえに皆様方のご指導、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。この受章は私個人のものでなく、日夜会社のため、社会のために精進、努力していただいている従業員の皆を代表しての拝受と認識致しております。

この受章の喜びを心の支えとして、今後もより意義のある活動を続け、業界の発展に尽力する所存です。何卒今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

黄綬

濱中ナット社長

濱中(はまなか)　重信(しげのぶ)氏

黄綬褒章受章の栄に浴し、誠に身に余る光栄と感激致しております。これもひとえに日本ねじ工業協会様、兵庫県鋲螺釘工業組合様、お客様、協力会社様をはじめ、皆様のおかげであるとともに、会社の発展を支えてくれた当社従業員の努力があってこその受章と感謝致しております。

今回の受章を機にこれからも皆様の信頼にお応えするべく、日々の研さんを怠らず、企業経営に精励して参る所存でございます。今後とも変わらぬご高配を賜りますようよろしくお願いします。

黄綬

ホーチキ会長

藤本(ふじもと)　二郎(じろう)氏

このたび黄綬褒章受章の栄誉を賜りましたこと、身に余る光栄であり感謝に堪えません。わが国最初の防災メーカーであるホーチキに入社以来44年、火災防災を通して人命と財産を守るという崇高な理念のもと、いささかなりとも社会の安全・安心のお役に立てたと自負しています。また微力ではありますが、業界活動にも尽力して参りました。

今後はこの受章を機会に世の中の皆様に感謝しつつ、さらに精進を重ね、より安全・安心な社会の実現に努力して参る所存です。

黄綬

渡辺造船所社長
(長崎市)

渡邉(わたなべ)　悦治(えつじ)氏

このたびの受章は身に余る光栄です。大手企業や大勢の造船に従事する方々を差し置いて、私にその価値があるか大変恐縮しております。造船業は流通業など一般消費者向けの産業と異なり、船主様があってこその産業です。そのため、あらためて船主への恩を感じております。

一方で省エネルギー船の開発、漁船の安全性や居住区の改善などで社会に貢献してきたという自負もあります。当社が扱う分野は地味ではありますが、受章を励みに今後も愚直に取り組んで参ります。

紫綬

大阪大学教授

久保(くぼ)　司郎(しろう)氏

このたびは思いがけなく紫綬褒章受章者の一人に選ばれ、身に余る光栄に存じます。これまで高温におけるき裂の進展に関わる高温破壊力学、並びに結果から原因を推定し、き裂の非破壊評価に応用できる逆問題解析に関する研究を行って参りました。今回の受章では、小生を含むグループの研究とこれらの研究分野が認められたものと存じます。ご協力、ご支援いただきました方々、並びにこれらの分野に光をあて、評価いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

紫綬

奈良先端科学技術
大学院大学教授

島本(しまもと)　功(こう)氏

このたびの受章、大変うれしく思います。受章の対象になった「花の咲く仕組みの研究」は奈良先端大バイオサイエンス研究科が創設され、赴任して以来20年近く取り組んできた研究です。中でも2007年に世界で初めて、花咲かホルモン、フロリゲンを発見し、昨年はフロリゲン受容体とその働きを解明したことが今回の受章につながりました。これまで一緒に研究をした大学院生、教員、研究員の皆さん、研究を支援していただいた奈良先端大の関係者に感謝したいと思います。

紫綬

広島大学教授

三浦(みうら)　道子(みちこ)氏

このたびの紫綬褒章受章は、設計回路用トランジスタモデルが国際標準品の認定を受けるため、みんなで協力した結果などが評価されたと思っています。大学、歴代の学生、行政と産業界の絶大な協力の成果で、一緒に喜びたいと思います。今、残念ながら日本の半導体は沈んでいますが、絶対にまたよみがえると信じ、みんなで頑張ろうとしています。四つ目の国際標準品の獲得を目指した取り組みと、今後も永遠に続く技術開発に取り組む若者に期待し、支援して参ります。